

総務省独立行政法人評価委員会（第39回）

平成24年12月20日

【森永委員長】 もう年末と呼んでいい時期になりましたが、ご多忙の中、皆さん時間を割いてくださりまして、ご出席いただきましてありがとうございます。今日は議題が2件あります。どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

今日のこの委員会でありますが、第39回総務省独立行政法人評価委員会でございます。定足数についてでございますが、委員15名中12名ご出席いただいております。定足数を満たしておりますので、始めさせていただきます。

それでは、まず総務省で人事異動がございましたので、事務局からご紹介いただきたいと思ひます。

【山内官房政策評価広報課長】 本委員会の事務局を務めます大臣官房政策評価広報課長の山内でございます。9月11日付で着任いたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。

新たに着任しました総務省の担当者をご紹介いたします。まず大臣官房総括審議官の田口でございます。

【田口官房総括審議官】 田口でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

【山内官房政策評価広報課長】 それから、統計センター分科会の事務局を担当しております統計局総務課長の水上でございます。

【水上統計局総務課長】 水上でございます。よろしくお願ひいたします。

【山内官房政策評価広報課長】 それでは、引き続きまして資料の確認をさせていただきますと思ひます。お手元の配付資料一覧にございますとおり、資料1、横長の資料でございます。それから資料2、同じく横長の資料でございます。その後ろに参考資料が1から5までとなっておりますが、過不足等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

【森永委員長】 ありがとうございます。それでは、続きまして、事務局を代表いたしまして田口大臣官房総括審議官から一言ご挨拶をいただきます。

【田口官房総括審議官】 この9月11日付で大臣官房の総括審議官、政策評価を担当することになりました田口でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日は、委員の先生方には大変ご多忙の中、総務省の独立行政法人評価委員会にご出席

をいただきまして、厚く御礼を申し上げます。

ちょうど総選挙も終わりました、新たな政権が間もなく誕生するという時期でございますが、いかなる状況にございまして、業務の効率化や透明性の確保といったことの重要性が失われることがないというふうにご考えてございます。より国民の立場に立ちました独立行政法人の運営につきまして取り組んでいくことは、大変重要な課題とと考えてございます。

本日の議題でございますが、お手元でございますとおり、宇宙航空研究開発機構と統計センターの中期目標期間終了に伴います業務・組織の見直し案についてでございます。見直しを通じまして、各法人の適正かつ効率的な運営を確保してまいりたいと考えております。どうか、委員の皆様方におかれましては今後ともよろしくご指導、ご鞭撻のほどお願いを申し上げます。

甚だ簡単ではございますが、始めるに当たりまして、ご挨拶とさせていただきます。本日はどうかよろしくお願いたします。

**【森永委員長】** ありがとうございます。

それでは、議事に入りたいと思います。まず議題1でございまして、「独立行政法人宇宙航空研究開発機構の中期目標期間終了時における組織・業務全般の見直し案（案）」についてでございます。

独立行政法人通則法第35条では、主務大臣が独立行政法人の中期目標期間の終了時におきまして、その組織及び業務の全般を見直し、検討を行うに当たっては、当委員会の意見を聞かなければならないとされておりまして、それで先生方に審議していただくわけです。

8月29日の親会では、見直しの当初案の審議をしていただきました。今回は、その案を受けまして、政策評価・独立行政法人評価委員会から通知される予定の「主要な事務及び事業の改廃に関する勧告の方向性（案）」等を踏まえまして、さらに検討がなされた見直し案（案）が出てまいります。これを先生方にご審議いただくわけです。

最終的な見直し案は、本日の審議も踏まえまして、今後、各主務大臣がまとめることになっております。

それでは、その議題1について、総務省沼田課長のほうからお願いします。

**【沼田宇宙通信政策課長】** それでは、資料1によりご説明させていただきます。

独立行政法人宇宙航空研究開発機構の組織・業務全般の見直し案（案）についてのご説明を差し上げるに際しまして、まずJAXAの次期中期目標の策定の流れについてご説明

申し上げます。恐縮でございますけれども、資料1の10ページの参考1をお開きください。JAXAの次期中期目標は、見直し案と次期宇宙基本計画に基づいて策定することとなっております。

まず、この参考資料左側、見直し案につきましてでございます。独法通則法に基づきまして、業務運営の効率性の向上等の観点から見直し事項について記載するものでございます。このページ左側にお示ししましたとおり、先ほど委員長からご案内がございました8月29日の総務省独立行政法人評価委員会での「見直し当初案」についてのご意見聴取に基づきまして、主務省であります文部科学省において見直し当初案が策定され、それに基づいた形で手続をとってございます。その後、政策評価・独立行政法人評価委員会におけます「勧告の方向性(案)」の審議、文科省におけます勧告の方向性(案)を踏まえた見直し案(案)の作成を経まして、本日の評価委員会における意見聴取という流れでございます。

他方、参考資料1の右側でございます宇宙基本計画につきましては、JAXAの次期中期目標は独立行政法人宇宙航空研究開発機構法の規定によりまして、宇宙基本計画に基づかなければならないとされているところでございます。この宇宙基本計画は、宇宙基本法に基づきまして、今後5年間の我が国の宇宙開発利用に関する基本的方針ですとか取り組むべき施策について記載するものでございまして、内閣府宇宙政策委員会での7月31日から11月20日までの審議を経まして、現在、12月25日までの期限ということで意見募集が行われてございます。来年1月中旬に開催が予定されております、内閣総理大臣を本部長といたします宇宙開発戦略本部におきまして、宇宙基本計画が決定されることになってございます。

それでは、資料1ページにお戻りください。独立行政法人宇宙航空研究開発機構の組織・業務全般の見直し案(案)につきましてご説明申し上げます。見直し案につきましては、政策評価・独立行政法人評価委員会による「独立行政法人宇宙航空研究開発機構の主要な事務及び事業の改廃に関する勧告の方向性(案)」に沿ったものとするということにつきまして、お諮り申し上げます。

まず1ページでございますけれども、見直し案(案)の全体の構成をお書きしてございます。上下に対比する形で、上側に勧告の方向性(案)、下側に見直し案(案)をお示ししてございます。見直し案(案)につきましては、前文第1として事務及び事業の見直し、この中に5項目ございます。第2として業務実施体制の見直し、第3として業務全般に関

する見直しという構成になってございます。

2ページにお移りください。前文についてでございます。主要な事務及び事業については、真に担うべきものへ特化、そして効率性、自律性及び質の向上を図る観点から、国の財政支出削減につながるよう、見直しを行うこととする中で、目標の明瞭化、客観性を備えることが不可欠であり、目標策定に当たって可能な限り、具体的かつ定量的に示すと。目標の達成度については、検証可能なものになるよう努めることとするという内容でございます。

3ページをお開きください。第1、事務及び事業の見直しのうち、1つ目の項目でございます宇宙政策全体の中での宇宙航空研究開発機構の位置付けについてでございます。貴重な財政資源の効率的、効果的な活用、そして政府全体としての研究開発成果の最大化の観点から、平成24年7月構築の新たな推進体制のもと、JAXAの使命、目標の明確化を図り、JAXAが真に担うべき研究開発に重点化をすることとするということでございます。また、他の研究開発型の独立行政法人、大学、民間との役割分担や連携を図りまして、達成すべき水準を次期中期目標に明記することとするとしてございます。

4ページにお移りください。第1のうち、2つ目の項目でございます研究成果の社会還元の明確化でございます。JAXAの実施する事業につきましては、国民生活の向上、産業の振興等に資する観点から、これまで以上に研究開発の成果が社会へ還元されるよう、ニーズのさらなる把握に努め、研究開発内容に反映させることとすると。また、そうした還元内容を国民にわかりやすい形で明らかにすることとするという内容でございます。

5ページをお開きください。3つ目の項目になります宇宙事業における民間への技術移転等の促進でございます。民間事業者による宇宙開発利用の促進の観点から、民間へのさらなる技術移転を行うとともに、民間・関係機関等におけます一層の研究開発成果の活用を進めることとするという内容でございます。

6ページをお開きください。4番目でございます。この項目につきましては、航空科学技術に関する研究開発の重点化でございますけれども、文部科学省の案分をそのままもとに資料をお示し申し上げてございますけれども、航空科学技術に関しましては、総務大臣は主務大臣という位置づけになってございませんので、説明は割愛させていただきます。

7ページをお開きください。5番目として契約の不正再発防止でございます。平成10年に引き続き、平成24年にも契約相手先におけます過大請求事案が判明してございます。原因究明を徹底的に図った結果を踏まえ、契約管理体制の見直しを含め、抜本的な再発防

止策を講じ、不正の抑制を図ることとするとしてございます。

8ページをお開きください。第2、業務実施体制の見直しでございます。管理部門について、業務運営の効率化の観点から、職員の再配置を引き続き進めることにより、一層の人員やコストの削減を図ることとするでございます。

9ページをお開きください。第3、業務全般に関する見直しでございます。業務全般に対しまして、4点ございます。1つ目は内部統制のさらなる充実・強化を図ることとするという内容でございます。その際、総務省の研究会が平成22年3月に公表いたしました報告書及び、総務省政策評価・独立行政法人評価委員会から各府省独立行政法人評価委員会等に通知した事項を参考にするということとしてございます。2点目、運営費交付金の算定は厳格に行うこととする。3点目、会計検査院による「平成23年度決算検査報告」の指摘を踏まえた見直しを行うこととする。4点目、これら以上のほか、既往の閣議決定等に示されました政府方針に基づく取組を着実に実施することとする。

以上が見直し案（案）でございます。

続きまして、11ページをお開きください。情報通信・宇宙開発分科会及び宇宙航空研究開発機構部会における文書審議等でいただきました意見をおまとめしてございます。

1つ目は、文部科学省の場合、それが通例だとしても、政策評価・独立行政法人評価委員会からの勧告の方向性とここまで同じ内容にするのには少々違和感を感じるというご意見でございます。2つ目は、宇宙関連予算の過度な縮小は我が国の宇宙関連技術・産業の衰退を招きかねないということで、十分な配慮が必要というご意見でございます。

3つ目と4つ目はともに、JAXAにおけますコンピュータウイルス関連のご意見でございます。3つ目は見直し案（案）に「情報管理」という項目を加えたほうがよいと。先月下旬にも、職員のパソコンのコンピュータウイルス感染事案が発覚し、ロケット情報が流出した可能性があるとされている。「業務全般に関する見直し」の中で、一言加えるという方策もあるというご意見でございます。4つ目のご意見でございますけれども、本年1月に発覚したコンピュータウイルス感染により情報の外部流出が生じたことから、平成23年度業務実績評価において、指導的意味も込めて厳しい評価を行ったと。最近もコンピュータウイルス感染によりロケットの情報が外部に流出した可能性がある旨報道されているところ、JAXAにおける情報管理・セキュリティ対策を一層強化する必要がある。

以上が文書審議でいただいている意見でございます。

資料をおめくりください。12ページから15ページにかけまして、参考3といたしま

して次期「宇宙基本計画（案）」を。そして16ページをお開きください。参考4といたしましてJAXAの概要を添付してございます。

説明は以上でございます。よろしくお願ひいたします。

【森永委員長】 ありがとうございます。

今、この見直し案をつくるについての案をご説明いただきました。これは沼田課長、今日これについてご審議いただいて、それも含めて、文章として文章化をして、文科省へ提出するのですか。

【沼田宇宙通信政策課長】 文科省から、手続としてどういう形で問い合わせが来るかにもよるのですけれども、まずはここにございます見直し案（案）というものをそのままお示しするとともに、いただきました意見も付して提出することにいたしたいかと考えてございます。

【森永委員長】 ということでございます。委員の方、ご意見ございましたらお願ひしたいと思います。

【佐藤委員】 よろしいですか。将来、何年後に例えば月に行くとか、それから火星に探査機を打ち上げるとか、そういう具体的な計画みたいなものは議論されているんですか。

【沼田宇宙通信政策課長】 宇宙基本計画が今後10年を見据えて、これからの5年間の計画を立てるということで、現在取りまとめの作業が進んでございます。そちらの宇宙基本計画の中で、そのような具体的な目標を、これから取り組むべき個別具体の開発利用について書き込みを、取りまとめがなされているところでございます。

JAXAの中期目標につきましては、先ほど参考1、資料の10ページでございますけれども、今般、この委員会でご審議いただいております見直し案に加えまして、この資料参考1の右側にあります宇宙基本計画もあわせてJAXAの次期中期目標の策定ということになります。

【佐藤委員】 中身が前とほぼ一緒だし、どこにいかうとしてるのかというのがちょっと見えないですね。5年間というのは、その前の5年で何をやり、その先の5年で何をやるという、そのこのところのつながりを強調されるというか、ここに向かうための5年間だという表現があると、少しわかりやすいかなという気がするんですけども。

【沼田宇宙通信政策課長】 ありがとうございます。これから見直し案に加えまして、JAXAの次期中期目標の策定の際、そういった向かうべき方向というものも目標の中に入ろうかと思っておりますので、ぜひ参考にさせていただこうと思ひます。ご意見ありがとうございます。

います。

【佐藤委員】 はい。

【森永委員長】 ほかの委員の方、いかがでしょうか。

参考2、11ページ。この親会にこれを出す前に、分科会で文書審議をしていただいたんですね。そのときに、こういう意見もつけて返ってきたということです。これを、3番目と4番目の黒丸は、内容的には同じだけれども、やはり情報管理、セキュリティ対策、非常に大切なことで、社会を騒がせている大きな要因でもありますし、実際、11月か何かにも、ここに書いてあるように実際あったし、三菱重工も同じようなサイバー攻撃を受けているから、今度、文科省へこれを上げられるときに、この辺を重点項目の中に、契約の不正再発防止というのがありましたよね。あれと同じような位置づけでお書きになるほうがいいと思いますので、参考として申し上げておきます。

【沼田宇宙通信政策課長】 ありがとうございます。

【森永委員長】 はい。ほかはどうですか。よろしいですか。

それでは、ありがとうございました。議題1はこれで終わらせていただきたいと思いません。

それでは、議題2に入ります。「独立行政法人統計センターの中期目標期間終了時における組織・業務全般の見直し案（案）」についての審議に入ります。

それでは、水上課長からお願いします。

【水上統計局総務課長】 それでは、独立行政法人統計センターの組織・業務全般の見直し案（案）についてご説明を申し上げます。

資料2でございます。1ページおめくりいただきまして本文でございます。今回の私どものほうの見直し案でございますが、こちらの評価委員会での意見、それから政独委の勧告の方向性を踏まえて作成をしております。本文のほうと、それに対照する政独委の勧告の方向性（案）を対照させるような形で、勧告の方向性を点線で囲んだような形で、対照する部分を示しているところでございます。本文のほうに沿って、必要に応じて勧告の方向性を参照する形でご説明させていただきます。

まず、見直しに当たっての基本的な考え方について、最初の大きく四角で囲ってあるところに記載をさせていただきます。統計センターの主要な事務、事業についてでございますけれども、中央統計機関の一翼として、公的統計制度の基盤となる役割を担い、その機能を十分に発揮するということ。それから、先般の独立行政法人制度改革において、国の行政

と密接な関係にある行政執行法人とされたことを踏まえて、統計センターの政策実施機能が最大限に発揮され、国民からの信頼を確保し得るものとするということという2つの観点から見直しを行うことにしております。見直しに当たりましては、国の財政支出の縮減につながるよう配慮することとしているところでございます。

見直しの方向の1番目でございますが、国民に対して提供するサービスの質の向上ということでございまして、各種統計調査の製表業務に関し、納期を遵守するとともに、さらなる質の向上に取り組むこととしております。

2ページ目に参りまして、2の業務実施体制の見直しでございます。こちらでは、これまでの閣議決定等を踏まえまして、業務運営の高度化・効率化に取り組むとともに、スリム化・合理化の計画を策定し、不断の見直しを実施するとしているところでございます。さらに、製表業務のうち民間委託可能な業務については民間委託を徹底すること等により、製表部門の常勤職員数の合理化を図ることとしております。また、各部門における人員配置につきまして、適正に実施することとしているところでございます。

3ページに参りまして、3番目として事務及び事業の見直しでございます。最初に製表業務の民間委託についてでございます。製表業務の民間委託に関する基準・方針や民間委託する業務範囲等を次期中期目標等に明記し、民間委託を積極的に実施することとしております。また、製表業務の民間委託に当たりましては、ICTの活用ですとか期間業務職員の活用に係るコストと民間委託に係るコストを分析・比較をした上で、民間委託のほうが効率的である場合には、民間委託を徹底するという一方で、民間委託を徹底的に実施するという方針を示しているところでございます。

続きまして、4ページでございますが、(2)として、従来の事務及び事業の見直しでございます。こちらは統計作成を取り巻く状況の変化ということで、なかなか統計調査について国民の協力が得られにくくなっている等の状況がございます。これに対応して、製表業務の中でも審査等について、業務量の増大が見込まれるということで、以下のような①から③を書いてございますが、こういった業務について適切に対応していくということでございます。①として、調査環境悪化に伴う記入状況不備等への対応。調査票の記入の状況の不備などに対して適切に対応していくということ。②として、公的統計作成における各府省・地方公共団体へのさらなる支援。③として、政府統計共同利用システムによるサービス提供の充実・強化。こういったことを引き続きやっていくこととしております。

2番目でございますが、続きまして受託製表業務についてでございます。これは統計セ



(4) といたしまして、自己収入の拡大のところでございます。これにつきましては、オーダーメイド集計ですとか匿名データの提供といった公的統計の二次的サービスにつきまして、今後のサービスの提供数ですとか手数料収入等の具体的な目標を設定するとともに、広報活動による周知・普及促進の取り組みなどサービス提供の拡大に努めていくこととしております。

5番目といたしまして、情報セキュリティ対策の徹底でございます。こちらにつきましては、外部からの不正アクセスやサイバー攻撃への対策を講じるとともに情報セキュリティ対策の徹底に引き続き取り組むこととしております。

6番目といたしまして、適切な目標設定及び評価指標の精緻化でございます。こちらについては、今後の発展的な業務運営に向け、適切な目標を立てると。それから、定量的な評価指標の精緻化を図ることとしております。目標につきましては、達成すべき内容や水準等を可能な限り具体的かつ定量的に示すと。定性的な目標にせざるを得ない場合であっても、目標の達成度について第三者が検証可能なものとなるよう努めることとしておるところでございます。

4番目、その他でございますが、内部統制についてさらなる充実・強化を努めることとしておるところでございます。

このように、勧告の方向性（案）等を踏まえて、見直しの基本方針について策定をしているところでございます。説明については以上でございます。

**【森永委員長】**      ありがとうございます。

では、ただいまの統計センターのご説明について、ご意見とかご質問がございましたらお願いしたいと思います。

政独委からの見直しの方向性に、例えば製表の正確さをどういうふうに数値であらわすのか、正確率というか、そういうこともはっきり指しなさいというのがあったんだけど、それは特に、もう書きませんか。何か、製表業務等の技術研究という項目もあったと思うんだけど。

**【水上統計局総務課長】**      勧告の方向性という形では、いただいているんですが。

**【森永委員長】**      この中身で、適切な目標設定及び評価指標の精緻化というのがありますね。その中に入ってくるのかもわからないけれども。

**【水上統計局総務課長】**      そうですね。広く言えば、適切な目標設定の中で、可能な限り具体的かつ定量的に示すといったところの中に、例えば格付の格付率とか、数値目標と

か、そういったものを示すということも含まれておりますので、そこの中に入ると思いません。

【森永委員長】 はい。ほか、いかがでしょうか。

【佐藤委員】 このセンターで、もう10年たって、人も1,000人いたのが、今、840人に減ってきて、それからコストも毎年何%ずつか削減してきて、それでまたもっと削減するんだってやっていて、私、ずっと10年間気にしていたのはモラルの維持なんです。そういう中で、皆さん努力されて、ABC/ABMに取り組んでみたり、TQCに取り組んでみたりとあって、努力されてるといのは外から見ているとわかるんですけど、またさらにこれから削減していかなきゃならない、その中だけれど、こうやって、やっていこうよという前向きなところというんでしょうか、そういう中の一つのやり方として、方針なのか年度方針なのかわかりませんが、職場でいろいろな議論をしてみるとか、統計センターが将来どうあるべきなんだろうとか、来年に何か新しいことを何かやろうとか、そういう職場でのディスカッションというの、少し入っていらっしゃるのか、方針を決めるのは上の話だから、センターさんと統計局さんと相談して大体決めたもので、今度、これでやれという形でいっちゃうのか、そのところが、ちょっと私もよくわからないんですけど、そういう細かい試作的なものは現場の意見も取り入れるよというの、一つあるかもしれないし、中には方針にかかわるようなやつ、長期的なものとか、今までやっていないこととか、そういうアイデア的なものとかを是非取り入れて行って欲しいと思います。現場の人も、TQCやってるからいろいろなところの問題意識を持たれているかと思うんですけども、そういうもので前向きなものは取り入れたらいいと思うんですけど、それはどうやってやったらいいかよくわからないんですけども。それについてはいかがでしょうか。そういう議論があったのか、それともこれから、年度計画の中でそういうのを取り入れていけるのかどうかとか。

【水上統計局総務課長】 センターの中でも、日常的に職員の意見というのは業務の参考にしているところでございますし、私どももこれを作成するに当たって、センターのほうで積極的に意欲を持って職員が働けるようにということで、センターのほうと意見交換をして作成しております。そういったことで、もちろん合理化ということだけではなくて、例えば二次利用みたいなことで、新たな増収策を講じるとか、そういったことも含めて、今回、見直しの方針に入れていただいております。

今後とも、やはりご指摘いただいた、職員の意欲の向上というのは非常に重要なことだ

と思いますので、センターとも一緒に相談をしながら、そういう職員の意見を何らかの形で反映させるというか、聞くといった形をとってまいりたいというふうに考えております。

【森永委員長】 はい、どうぞ。

【土井委員】 今のお話とも関連するのですが、5ページの一番上のところに、統計ニーズの多様化への対応など書いてあるのですが、サイバーフィジカルシステムということで、今、データが重要だよというところになってきているので、確かに業務の効率化を図るということも大事だとは思いますが、そういう意味では、今まできちんと集めてきたデータを有効に活用するようにはできる、ほかのいろいろなデータと合わせてデータマイニングできるようにしていくようなことを考えると、やはりそういうもう少し時代の要請に向けた前向きなトーンが、例えばこういうところに出てくるみたいな、別に今風の言葉を使うのがいいとは必ずしも思わないのですが、そういう統計データはすごく重要だと思いますし、やはり継続的に、こういうデータがあるのが重要なことなので、そういうふうに意識をして進めてほしいのだという、もう少し前向きな文章があるといいなと思いました。

【水上統計局総務課長】 ありがとうございます。私ども、その辺は政府統計共同利用システムによるサービス提供の強化とか、そういうことは引き続きやってまいりたいと思いますが、今後、そういう面での業務の強化とか、その辺も検討していく必要があると思いますので、どうもありがとうございます。

【森永委員長】 では、ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。これで2番目の議題も終わらせていただきます。

今、少しご意見もちょうだいしたのですが、これを各主務省におかれまして、今回の審議内容を十分に踏まえて、見直し案を決定いただくということにここでお願いします。

それから、JAXAのほうは文科省で責任を持ってまとめる。統計センターのほうは総務省のほうでおやりになるということですね。よろしくお願いします。

次、見直し案決定後の流れについてですが、大体を申し上げておきますと、独立行政法人通則法第29条及び第30条によりまして、主務大臣が次期中期目標を定めて各法人に指示し、各法人がその指示を受けて、次期中期計画を作成し、主務大臣がこれを認可するということとなります。主務大臣が中期目標を定める際と、中期計画を認可する際には、やはりこの当委員会の意見を聞くこととされておりますので、この親委員会、次回はこの中期目標、それから中期計画について出てきますので、それを審議していただくという運

びになります。

ほかは、委員の方々、何かございますか。よろしいですか。

それでは、事務局のほうから連絡等、お願いします。

**【山内官房政策評価広報課長】** 次回の会議でございますが、先ほど委員長からご説明がありましたとおり、本日ご審議いただきました宇宙航空研究開発機構と統計センターの中期目標、中期計画につきましてご審議をいただくということでございまして、2月もしくは3月に開催することを予定しておりますけれども、日程の詳細につきましては改めて事務局よりご連絡させていただきます。

以上でございます。

**【森永委員長】** それでは、最後になりますが、岡崎大臣官房政策評価審議官から一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

**【岡崎官房政策評価審議官】** どうも師走のお忙しい中にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

今日は、もう何回も繰り返しになりますけれども、宇宙航空研究開発機構、それから統計センターの中期目標期間の終了を控えた見直し案につき、ご審議をいただいたということでございまして、先ほど委員長から紹介がありましたように、今後、その見直し案自体の決定、中期目標、中期計画といった形で、来年度に向けて進んでいくこととなりますので、またその過程におきましても、委員の皆様方のご協力等をお願いすることがあると思いますので、よろしくお願いいたします。

去年も同じことを言いましたけれど、非常に寒くなってきておりますので、お体、お気をつけいただきまして、また新しい新年をお迎えいただきますようにお祈り申し上げまして、簡単ですが、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

**【森永委員長】** どうもありがとうございました。

以上もちまして、評価委員会を終了したいと思います。ありがとうございました。